



RIP の設定

この章では、Cisco NX-OS スイッチでの Routing Information Protocol (RIP) の設定方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- RIP 情報 (1 ページ)
- RIP の前提条件 (4 ページ)
- RIP に関する注意事項と制約事項 (4 ページ)
- RIP のデフォルト設定 (4 ページ)
- RIP の設定 (5 ページ)
- RIP の設定の確認 (20 ページ)
- RIP 統計情報の表示 (20 ページ)
- RIP の設定例 (21 ページ)
- 関連項目 (21 ページ)
- その他の参考資料 (21 ページ)

RIP 情報

このセクションは、次のトピックで構成されています。

RIP の概要

RIP はユーザデータグラムプロトコル (UDP) データパケットを使用して、小規模なインターネットでルーティング情報を交換します。RIPv2 は IPv4 をサポートしています。RIPv2 は RIPv2 プロトコルがサポートするオプションの認証機能を使用します（「[RIPv2 の認証](#)」の項を参照）。

RIP では次の 2 種類のメッセージを使用します。

- 要求：他の RIP 対応ルータからのルート アップデートを要求するためにマルチキャストアドレス 224.0.0.9 に送信されます。

- 応答：デフォルトでは30秒間隔で送信されます（「[RIP 設定の検証](#)」の項を参照）。ルータも、要求メッセージの受信後に応答メッセージを送信します。応答メッセージには、RIP ルートテーブル全体が含まれます。RIP ルーティングテーブルが1つの応答パケットに収まらない場合、RIP は1つの要求に対して複数の応答パケットを送信します。

RIP はルーティングメトリックとして、ホップカウントを使用します。ホップカウントは、パケットが宛先に到達するまでに、通過できるルータの数です。直接接続されたネットワークのメトリックは1です。到達不能なネットワークのメトリックは16です。RIP はこのようにメトリックの範囲が小さいので、大規模なネットワークに適したルーティングプロトコルではありません。

RIPv2 認証

RIP メッセージに認証を設定して、ネットワークでの不正な、または無効なルーティング更新を防止できます。Cisco NX-OS は簡易パスワードまたは MD5 認証ダイジェストをサポートしています。

認証キーのキー管理を使用することによって、インターフェイスごとに RIP 認証を設定できます。キー管理によって、MD5 認証ダイジェストまたは単純テキストパスワード認証で使用される認証キーの変更を制御できます。キーの作成の詳細については、[Cisco Nexus 3548 スイッチ NX-OS セキュリティ構成ガイド](#) を参照してください。

MD5 認証ダイジェストを使用するには、ローカルルータとすべてのリモート RIP ネイバーが共有するパスワードを設定します。Cisco NX-OS は、そのメッセージ自体と暗号化されたパスワードに基づいて MD5 一方向メッセージダイジェストを作成し、このダイジェストを RIP メッセージ（要求または応答）とともに送信します。受信側の RIP ネイバーは、同じ暗号パスワードを使用して、ダイジェストを検証します。メッセージが変更されていない場合は、計算が一致し、RIP メッセージは有効と見なされます。

MD5 認証ダイジェストの場合はさらに、ネットワークでメッセージが再送されないように、各 RIP メッセージにシーケンス番号が組み込まれます。

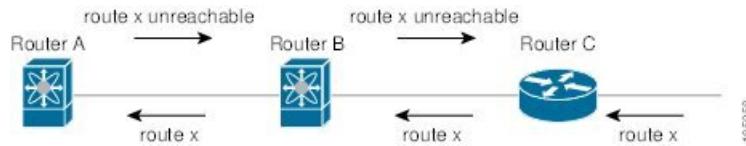
Split Horizon

スプリットホライズンを使用すると、ルートを学習したインターフェイスから RIP がルートをアドバタイズしないようにできます。

スプリットホライズンは、RIP アップデートおよびクエリー パケットの送信を制御する方法です。インターフェイスでスプリットホライズンをイネーブルにすると、Cisco NX-OS は、このインターフェイスから学習された宛先への更新パケットを送信しません。この方法でアップデート パケットを制御すると、ルーティングループの発生する可能性が小さくなります。

ポイズンリバースを指定してスプリットホライズンを使用すると、ルートを学習したインターフェイス経由では到達不能であると RIP が学習したルートをアドバタイズするように、インターフェイスを設定できます。以下の図に、ポイズンリバースをイネーブルにしてスプリットホライズンを指定した、RIP ネットワークの例を示します。

図 1: スプリットホライズンポイズンリバースを指定した RIP



ルータ C はルート X について学習し、そのルートをルータ B にアドバタイズします。ルータ B はルート X をルータ A にアドバタイズしますが、ルート X の到達不能アップデートをルータ C に送り返します。

デフォルトでは、スプリットホライズンはすべてのインターフェイスでイネーブルになっていきます。

ルートのフィルタリング

RIP 対応インターフェイス上でルート ポリシーを設定すると、RIP アップデートをフィルタリングできます。Cisco NX-OS は、ルートポリシーで許可されたルートだけを使用して、ルートテーブルをアップデートします。

ルート集約

指定したインターフェイスに複数のサマリー集約アドレスを設定できます。ルート集約を使用すると、固有性の強い一連のアドレスをすべての固有アドレスを代表する1つのアドレスに置き換えることによって、ルートテーブルを簡素化できます。たとえば、10.1.1.0/24、10.1.2.0/24、および 10.1.3.0/24 というアドレスを1つの集約アドレス 10.1.0.0/16 に置き換えることができます。

RIP はルーティングテーブルに含まれている固有性の強いルートが多いほど、固有性の強いルートの最大メトリックと同じメトリックのインターフェイスからのサマリーアドレスをアドバタイズします。



(注) Cisco NX-OS は、自動ルート集約をサポートしていません。

ルートの再配布

RIP を使用すると、スタティックルートや他のプロトコルからのルートを再配布できます。再配布を設定するには、ルートポリシーを使用して、RIP に渡すルートを制御します。ルートポリシーを使用すると、宛先、送信元プロトコル、ルートタイプ、ルートタグなどの属性に基づいて、ルートをフィルタリングできます。詳細については、[ルートポリシーマネージャの構成](#)のセクションを参照してください。

RIP ルーティング ドメインにルートを再配布しても、デフォルトでは Cisco NX-OS がそのつど、RIP ルーティング ドメインにデフォルトルートを再配布することはありません。RIP にデフォルトルートを生成し、ルートポリシーでそのルートを制御できます。

■ ロードバランシング

RIP にインポートされたすべてのルートに使用する、デフォルトのメトリックも設定できます。

ロードバランシング

ロードバランシングを使用すると、ルータは、宛先アドレスから等距離内にあるすべてのルータのネットワークポートにトラフィックを分散できます。ロードバランシングは、ネットワークセグメントの使用率を向上させ、有効ネットワーク帯域幅を増加させます。

Cisco NX-OS は、等コストマルチパス (ECMP) 機能をサポートします。RIP ルートテーブルおよびユニキャスト RIB の等コストパスは最大 32 です。これらのパスの一部または全部でトラフィックのロードバランシングが行われるように、RIP を設定できます。

仮想化のサポート

Cisco NX-OS は、同一システム上で動作する複数の RIP プロトコルインスタンスをサポートします。RIP は仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスをサポートします。

デフォルトでは、特に別の VRF を設定しない限り、Cisco NX-OS はユーザーをデフォルトの VRF に配置します。

RIP の前提条件

RIP を使用するには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- RIP 機能がイネーブルになっていることを確認します ([RIP 機能の有効化](#) のセクションを参照)。

RIP に関する注意事項と制約事項

RIP には、次の注意事項および制限事項があります。

- Cisco NX-OS では、RIPv1 はサポートされていません。Cisco NX-OS は、RIPv1 パケットを受信すると、メッセージを記録してパケットをドロップします。
- Cisco NX-OS は、RIPv1 ルータとの隣接関係を確立しません。

RIP のデフォルト設定

次の表に、RIP パラメータのデフォルト設定を示します。

表 1: デフォルトの RIP パラメータ

パラメータ	デフォルト
ロード バランシングを行う最大パス数	16
RIP 機能	無効化
スプリット ホライズン	有効 (Enabled)

RIP の設定



(注) Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能に対応する Cisco NX-OS コマンドは通常使用する Cisco IOS コマンドと異なる場合があるので注意してください。

RIP 機能のイネーブル化

RIP を設定する前に、RIP 機能をイネーブルにする必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **feature rip**
3. (任意) **show feature**
4. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	feature rip 例： <pre>switch(config)# feature rip</pre>	RIP 機能を有効にします。

RIP インスタンスの作成

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) show feature 例： <pre>switch(config)# show feature</pre>	有効および無効にされた機能を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

no feature rip コマンドを使用して、RIP 機能をディセーブルにし、関連するコンフィギュレーションをすべて削除します。

コマンド	目的
no feature rip 例： <pre>switch(config)# no feature rip</pre>	RIP 機能をディセーブルにして、関連するすべての設定を削除します。

RIP インスタンスの作成

RIP インスタンスを作成し、そのインスタンスのアドレス ファミリを設定できます。

始める前に

DHCP 機能が有効になっていることを確認します。 [RIP 機能の有効化](#) のセクションを参照してください。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router rip instance-tag**
3. **address-family ipv4 unicast**
4. (任意) **show ip rip [instance instance-tag] [vrf vrf-name]**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	router rip instance-tag 例： <pre>switch(config)# router RIP Enterprise switch(config-router)#</pre>	<i>instance-tag</i> 値を設定して、新しい RIP インスタンスを作成します。
ステップ 3	address-family ipv4 unicast 例： <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#</pre>	この RIP インスタンスのアドレス ファミリを設定し、アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	(任意) show ip rip [instance instance-tag] [vrf vrf-name] 例： <pre>switch(config-router-af)# show ip rip</pre>	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

RIP インスタンスおよび関連するすべての設定を削除する場合は、**no router rip** コマンドを使用します。

コマンド	目的
no router rip instance-tag 例： <pre>switch(config)# no router rip Enterprise</pre>	RIP インスタンスおよび関連するすべての設定を削除します。



(注) インターフェイス モードで設定した RIP コマンドを削除することも必要です。

RIP インスタンスの再起動

アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードでは、RIP に次のオプション パラメータを設定できます。

コマンド	目的
distance value 例： <code>switch(config-router-af)# distance 30</code>	RIP のアドミニスト레이ティブ ディスタンスを設定します。範囲は 1 ~ 255 です。デフォルトは 120 です。「アドミニストレイティブ ディスタンス」のセクションを参照してください。
maximum-paths number 例： <code>switch(config-router-af)# maximum-paths 6</code>	RIP がルート テーブルで維持する等コスト パスの最大数を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 32 です。デフォルトは 16 です。

次に、IPv4 に対応する RIP インスタンスを作成し、ロード バランシングのための等コスト パス数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router rip Enterprise
switch(config-router)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-af)# max-paths 10
switch(config-router-af)# copy running-config startup-config
```

RIP インスタンスの再起動

RIP インスタンスの再起動が可能です。再起動すると、インスタンスのすべてのネイバーが消去されます。

RIP インスタンスを再起動し、関連付けられたすべてのネイバーを削除するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
restart rip instance-tag 例： <code>switch(config)# restart rip Enterprise</code>	RIP インスタンスを再起動し、すべてのネイバーを削除します。

インターフェイスでの RIP の設定

RIP インスタンスにインターフェイスを追加できます。

始める前に

RIP 機能がイネーブルになっていることを確認します（[RIP 機能のイネーブル化](#)を参照してください）。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface interface-type slot/port**
3. **no switchport**
4. **ip router rip instance-tag**
5. (任意) **show ip rip [instance instance-tag] interface [interface-type slot/port] [vrf vrf-name] [detail]**
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ2	interface interface-type slot/port 例： <pre>switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#</pre>	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ3	no switchport 例： <pre>switch(config-if)# no switchport</pre>	そのインターフェイスを、レイヤ3ルーティングインターフェイスとして設定します。
ステップ4	ip router rip instance-tag 例： <pre>switch(config-if)# ip router rip Enterprise</pre>	このインターフェイスを RIP インスタンスに関連付けます。
ステップ5	(任意) show ip rip [instance instance-tag] interface [interface-type slot/port] [vrf vrf-name] [detail] 例： <pre>switch(config-if)# show ip rip Enterprise tethernet 1/2</pre>	インターフェイスの RIP 情報を表示します。
ステップ6	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

RIP インスタンスの再起動

例

次に、RIP インスタンスにインターフェイス ethernet 1/2 を追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip router rip Enterprise
switch(config)# copy running-config startup-config
```

RIP インスタンスの再起動

RIP インスタンスの再起動が可能です。再起動すると、インスタンスのすべてのネイバーが消去されます。

RIP インスタンスを再起動し、関連付けられたすべてのネイバーを削除するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
restart rip <i>instance-tag</i> 例： <code>switch(config)# restart rip Enterprise</code>	RIP インスタンスを再起動し、すべてのネイバーを削除します。

インターフェイスでの RIP の設定

RIP インスタンスにインターフェイスを追加できます。

始める前に

RIP 機能がイネーブルになっていることを確認します（[RIP 機能のイネーブル化](#)を参照してください）。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface *interface-type slot/port***
3. **no switchport**
4. **ip router rip *instance-tag***
5. （任意） **show ip rip [*instance instance-tag*] interface [*interface-type slot/port*] [**vrf *vrf-name***] [**detail**]**
6. （任意） **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config) #</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	interface interface-type slot/port 例： <pre>switch(config) # interface ethernet 1/2 switch(config-if) #</pre>	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 3	no switchport 例： <pre>switch(config-if) # no switchport</pre>	そのインターフェイスを、レイヤ3ルーティングインターフェイスとして設定します。
ステップ 4	ip router rip instance-tag 例： <pre>switch(config-if) # ip router rip Enterprise</pre>	このインターフェイスを RIP インスタンスに関連付けます。
ステップ 5	(任意) show ip rip [instance instance-tag] interface [interface-type slot/port] [vrf vrf-name] [detail] 例： <pre>switch(config-if) # show ip rip Enterprise tethernet 1/2</pre>	インターフェイスの RIP 情報を表示します。
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config) # copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、RIP インスタンスにインターフェイス ethernet 1/2 を追加する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config) # interface ethernet 1/2  
switch(config-if) # no switchport  
switch(config-if) # ip router rip Enterprise  
switch(config) # copy running-config startup-config
```

RIP 認証の設定

RIP 認証の設定

始める前に

RIP 機能がイネーブルになっていることを確認します ([RIP 機能の有効化](#)を参照)。

認証をイネーブルにする前に、必要に応じてキーチェーンを設定します。キーチェーン実装の詳細については、[Cisco Nexus 3548 スイッチ NX-OS セキュリティ構成ガイド](#)を参照してください。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface *interface-type slot/port***
3. **no switchport**
4. **ip rip authentication mode { text | md5 }**
5. **ip rip authentication key-chain *key***
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config) #	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ2	interface <i>interface-type slot/port</i> 例： switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if) #	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ3	no switchport 例： switch(config-if) # no switchport	そのインターフェイスを、レイヤ3ルーティングインターフェイスとして設定します。
ステップ4	ip rip authentication mode { text md5 } 例： switch(config-if) # ip rip authentication mode md5	クリアテキストまたはMD5認証ダイジェストとして、このインターフェイスにおけるRIP認証タイプを設定します。
ステップ5	ip rip authentication key-chain <i>key</i> 例： switch(config-if) # ip rip authentication keychain RIPKey	このインターフェイス上でRIPに使用する認証キーを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、キーチェーンを作成し、RIPインターフェイス上でMD5認証を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# key chain RIPKey
switch(config)# key-string myrip
switch(config)# accept-lifetime 00:00:00 Jan 01 2000 infinite
switch(config)# send-lifetime 00:00:00 Jan 01 2000 infinite
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip authentication mode md5
switch(config-if)# ip rip authentication keychain RIPKey
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

パッシブインターフェイスの設定

インターフェイスを受動モードに設定することによって、ルートを受信するが、ルートアップデータの送信は行わないように RIPインターフェイスを設定できます。

受動モードで RIPインターフェイスを設定するには、インターフェイス設定モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
ip rip passive-interface 例： switch(config-if)# ip rip passive-interface	インターフェイスを受動モードに設定します。

ポイズンリバースを指定したスプリットホライズンの設定

インターフェイスの設定でポイズンリバースをイネーブルにすると、RIPが学習したルートについて、ルートを学習したインターフェイス経由では到達不能であることをアドバタイズできます。

インターフェイス上で、ポイズンリバースを指定してスプリットホライズンを設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

■ ルート集約の設定

コマンド	目的
ip rip poison-reverse 例： <pre>switch(config-if)# ip rip poison-reverse</pre>	ポイズンリバースを指定してスプリットホライズンをイネーブルにします。ポイズンリバースを指定したスプリットホライズンは、デフォルトでディセーブルです。

ルート集約の設定

ルーティングテーブルでサマリーアドレスによって表されるサマリアドレスを作成できます。Cisco NX-OS は、固有性の強いすべてのルートの中でメトリックが最小のサマリーアドレスメトリックをアドバタイズします。

インターフェイス上でサマリーアドレスを設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
ip rip summary-address ip-prefix/mask-len 例： <pre>switch(config-if)# ip router rip summary-address 192.0.2.0/24</pre>	IPv4 アドレスに対応する、RIP 用のサマリーアドレスを設定します。

ルートの再配布の設定

別のルーティングプロトコルからのルーティング情報を受け入れて、RIP ネットワークを通じてその情報を再配布するように、RIP を設定できます。再配布されたルートを任意で、デフォルトルートとして割り当てることができます。

始める前に

RIP 機能がイネーブルになっていることを確認します ([RIP 機能の有効化](#)を参照)。

再配布を設定する前に、ルートマップを設定します。ルートマップの設定の詳細については、「[ルートマップの設定](#)」セクションを参照してください。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router rip instance-tag**
3. **address-family ipv4 unicast**
4. **bgp {direct as | eigrp | {ospf | ospfv3 | rip | static | route-map} instance-tag | } redistributemap-name**
5. (任意) **default-information originate [always] [route-map map-name]**
6. (任意) **default-metric value**
7. (任意) **show ip rip route [ip-prefix [longer-prefixes | shorter-prefixes] [vrf vrf-name] [summary]]**

8. (任意) copy running-config startup-config

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	router rip instance-tag 例： <pre>switch(config)# router RIP Enterprise switch(config-router)#</pre>	<i>instance-tag</i> 値を設定して、新しい RIP インスタンスを作成します。
ステップ 3	address-family ipv4 unicast 例： <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#</pre>	この RIP インスタンスのアドレス ファミリを設定し、アドレスファミリコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	bgp {direct as eigrp {ospf ospfv3 rip static route-map} instance-tag } redistributemap-name 例： <pre>switch(config-router-af)# redistribute eigrp 201 route-map RIPmap</pre>	他のプロトコルからのルートを RIP に再配布します。ルートマップの設定の詳細については、 ルートマップの設定 のセクションを参照してください。
ステップ 5	(任意) default-information originate [always] [route-map map-name] 例： <pre>switch(config-router-af)# default-information originate always</pre>	RIP にデフォルトルートを生成し、必要に応じてルートマップにより制御します。
ステップ 6	(任意) default-metric value 例： <pre>switch(config-router-af)# default-metric 10</pre>	再配布されたすべてのルートにデフォルトメトリックを設定します。有効な範囲は1～15です。デフォルトは1です。
ステップ 7	(任意) show ip rip route [ip-prefix [longer-prefixes shorter-prefixes] [vrf vrf-name] [summary]] 例： <pre>switch(config-router-af)# show ip rip route</pre>	RIP のルートを表示します。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config 例：	この設定変更を保存します。

仮想化の設定

コマンドまたはアクション	目的
switch(config)# copy running-config startup-config	

例

次に、EIGRP を RIP に再配布する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router rip Enterprise
switch(config-router)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-af)# redistribute eigrp 201 route-map RIPmap
switch(config-router-af)# copy running-config startup-config
```

仮想化の設定

複数の VRF を作成できます。また、各 VRF で同じ RIP インスタンスを使用することも、複数の RIP インスタンスを使用することも可能です。VRF に RIP インターフェイスを割り当てます。



(注) インターフェイスの VRF を設定した後に、インターフェイスの他のすべてのパラメータを設定します。インターフェイスの VRF を設定すると、そのインターフェイスのすべての設定が削除されます。

始める前に

RIP 機能がイネーブルになっていることを確認します ([RIP 機能の有効化](#)を参照)。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **vrf vrf-name**
3. **exit**
4. **router rip instance-tag**
5. **vrf context vrf-name**
6. (任意) **address-family ipv4 unicast**
7. (任意) **bgp {direct as | eigrp | {ospf | ospfv3 | rip | static | route-map} instance-tag | } redistributemap-name**
8. **interface ethernet slot/port**
9. **no switchport**
10. **vrf member vrf-name**
11. **ip address ip-prefix/length**
12. **ip router rip instance-tag**
13. (任意) **show ip rip route [ip-prefix [longer-prefixes | shorter-prefixes] [vrf vrf-name] [summary]]**

14. (任意) copy running-config startup-config

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	vrf vrf-name 例： <pre>switch(config)# vrf RemoteOfficeVRF switch(config-vrf)#</pre>	新しいVRFを作成します。
ステップ 3	exit 例： <pre>switch(config-vrf)# exit switch(config)#</pre>	VRF設定モードを終了します。
ステップ 4	router rip instance-tag 例： <pre>switch(config)# router RIP Enterprise switch(config-router)#</pre>	<i>instance-tag</i> 値を設定して、新しいRIPインスタンスを作成します。
ステップ 5	vrf context vrf-name 例： <pre>switch(config)# vrf context RemoteOfficeVRF switch(config-vrf)#</pre>	新しいVRFを作成し、VRF設定モードを開始します。
ステップ 6	(任意) address-family ipv4 unicast 例： <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#</pre>	このRIPインスタンスのVRFアドレスファミリを設定します。
ステップ 7	(任意) bgp {direct as eigrp {ospf ospfv3 rip static route-map} instance-tag } redistributemap-name 例： <pre>switch(config-router-af)# redistribute eigrp 201 route-map RIPmap</pre>	他のプロトコルからのルートをRIPに再配布します。ルートマップの設定の詳細については、 ルートマップの設定 のセクションを参照してください。
ステップ 8	interface ethernet slot/port 例：	インターフェイス設定モードを開始します。

仮想化の設定

	コマンドまたはアクション	目的
	switch(config-router-vrf-af)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#[/td> <td></td>	
ステップ 9	no switchport 例： switch(config-if)# no switchport	そのインターフェイスを、レイヤ3ルーティングインターフェイスとして設定します。
ステップ 10	vrf member vrf-name 例： switch(config-if)# vrf member RemoteOfficeVRF	このインターフェイスを VRF に追加します。
ステップ 11	ip address ip-prefix/length 例： switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/16	このインターフェイスのIPアドレスを設定します。 このステップは、このインターフェイスを VRF に割り当てたあとに行う必要があります。
ステップ 12	ip router rip instance-tag 例： switch(config-if)# ip router rip Enterprise	このインターフェイスを RIP インスタンスに関連付けます。
ステップ 13	(任意) show ip rip route [ip-prefix [longer-prefixes shorter-prefixes] [vrf vrf-name] [summary]] 例： switch(config-router-af)# show ip rip route	RIP のルートを表示します。
ステップ 14	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

次に、VRF を作成して、その VRF にインターフェイスを追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vrf context RemoteOfficeVRF
switch(config-vrf)# exit
switch(config)# router rip Enterprise
switch(config-router)# vrf RemoteOfficeVRF
switch(config-router-vrf)# address-family ipv4 unicast
switch(config-router-vrf-af)# redistribute eigrp 201 route-map RIPmap
switch(config-router-vrf-af)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# vrf member RemoteOfficeVRF
switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/16
switch(config-if)# ip router rip Enterprise
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

RIP の調整

ネットワーク要件に適合するように RIP を調整できます。RIP では複数のタイマーを使用して、ルーティングアップデート間隔、ルートが無効になるまでの時間の長さ、およびその他のパラメータを決定します。これらのタイマーを調整すると、インターネットワークのニーズに適合するように、ルーティングプロトコルのパフォーマンスを調整できます。



(注) ネットワーク上のすべての RIP 対応ルータで、RIP タイマーに同じ値を設定する必要があります。

RIP を調整するには、アドレス ファミリ コンフィギュレーションモードで次のオプションコマンドを使用します。

コマンド	目的
timers basic update timeout holddown garbage-collection 例 : <pre>switch(config-router-af)# timers basic 40 120 120 100</pre>	<p>RIP タイマーを秒数で設定します。パラメータは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • update : 指定できる範囲は 5 ~ 任意の正の整数。デフォルトは 30 です。 • timeout : ルートの無効を宣言するまでに、Cisco NX-OS が待機する時間。タイムアウトインターバルが終了するまでに、このルートのアップデート情報を Cisco NX-OS が受信しなかつた場合、Cisco NX-OS はルートの無効を宣言します。指定できる範囲は 1 ~ 任意の正の整数です。デフォルトは 180 です。 • holddown : 無効ルートに関するよりよいルート情報を Cisco NX-OS が無視する時間。指定できる範囲は 0 ~ 任意の正の整数です。デフォルトは 180 です。 • garbage-collection : Cisco NX-OS がルートを無効として表示してから、Cisco NX-OS がそのルートをルーティングテーブルから削除するまでの時間。指定できる範囲は 1 ~ 任意の正の整数です。デフォルトは 120 です。

RIP を調整するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで次のオプションコマンドを使用します。

コマンド	目的
ip rip metric-offset value 例 : <pre>switch(config-if)# ip rip metric-offset 10</pre>	<p>このインターフェイスで受信する各ルータのメトリックに値を追加します。有効な範囲は 1 ~ 15 です。デフォルトは 1 です。</p>

RIP の設定の確認

コマンド	目的
ip rip route-filter {prefix-list list-name route-map map-name [in out]} 例： <pre>switch(config-if)# ip rip route-filter route-map InputMap in</pre>	着信または発信 RIP アップデートをフィルタリングするための、ルートマップを指定します。

RIP の設定の確認

RIP の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show ip rip instance [instance-tag] [vrf vrf-name]	RIP インスタンスの状態を表示します。
show ip rip [instance instance-tag] interface slot/port detail [vrf vrf-name]	インターフェイスの RIP ステータスを表示します。
show ip rip [instance instance-tag] neighbor [interface-type number] [vrf vrf-name]	RIP ネイバー テーブルを表示します。
show ip rip [instance instance-tag] route [ip-prefix/length [longer-prefixes shorter--prefixes]] [summary] [vrf vrf-name]	RIP ルート テーブルを表示します。
show running-configuration rip	現在実行中の RIP コンフィギュレーションを表示します。

RIP 統計情報の表示

RIP 統計情報設定表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show ip rip [instance instance-tag] policy statistics redistribute { bgp as direct { eigrp ospf ospfv3 rip } instance-tag static} [vrf vrf-name]	RIP ポリシー ステータスを表示します。
show ip rip [instance instance-tag] statistics interface-type number [vrf vrf-name]	RIP の統計情報を表示します。

clear ip rip policy コマンドを使用して、ポリシー統計情報をクリアします。

clear ip rip statistics コマンドを使用して、RIP 統計情報をクリアします。

RIP の設定例

VRF で Enterprise RIP インスタンスを作成し、その RIP インスタンスにイーサネットインターフェイス 1/2 を追加する例を示します。さらに、`enthernet interface 1/2` の認証を設定し、この RIP ドメインに EIGRP を再配布します。

```
vrf context NewVRF
!
feature rip
router rip Enterprise
vrf NewVRF
address-family ip unicast
redistribute eigrp 201 route-map RIPmap
max-paths 10
!
interface ethernet 1/2
no switchport
vrf NewVRF
ip address 192.0.2.1/16
ip router rip Enterprise
ip rip authentication mode md5
ip rip authentication keychain RIPKey
```

関連項目

ルートマップの詳細については、[ルートポリシーマネージャの構成](#)を参照してください。

その他の参考資料

RIP の実装に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

- [関連資料](#)
- [標準](#)

■ 関連資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
RIP CLI コマンド	『Cisco Nexus 3000 Series Command Reference』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。